

1 学校保健の動向

子どもの健康課題が多様化・深刻化している現状において、多くの支部が『児童生徒の「生きる力」を育む学校保健活動の充実』をメインテーマに掲げ、個々の子どもへの対応を念頭に、より実効性のある実践研究に取り組んでいる。外部講師を招いての全体研修により、喫緊の解決が必要な健康課題への理解を深め、課題別、地区別、中学校区別などに分かれてのグループ別研修では、子どもの実態に直結する充実した研修がなされている。研修内容は、大きく次の2点に分けられる。

(1) 生活習慣の改善

東蒲原郡、燕市・西蒲原郡、長岡市・三島郡では、健康の内的統制力向上をめざして、睡眠や生活リズムが健康に大きくかかわることに着目させる授業研究が行われた。妙高市では、各中学校校区で「メディアコントロール」を共通課題に掲げ、生活習慣改善に向けての取組がなされた。柏崎市・刈羽郡では、授業実践をとおして、子どもの問題意識を高める工夫や担任と養護教諭のチームティーチングの進め方が研究された。新潟市では、「発達段階に応じた生活習慣の確立」をめざし、アクティブ・ラーニングを意識した授業実践が行われた。

(2) 養護教諭の専門性を生かした支援や指導のあり方

上越市では「保健管理」を「子どもを育てる」視点から見直し、実践をとおして工夫改善が図られた。阿賀野市、小千谷市、魚沼市、南魚沼郡、十日町市・中魚沼郡、糸魚川市では、小・中連携を核として養護教諭の「コーディネーション力」の向上に向けての研修がなされた。保健室の来室者に適切に対応するために、胎内市ではコミュニケーションスキルを、村上市ではフィジカルアセスメントについて、見附市や新発田・北蒲原郡では、身体症状における心因性か器質性かの判断、心と体のケアについて研修が進められた。佐渡市では適応教室と、三条市では児童相談所と連携し、不登校や虐待などの研修をとおしてつながりを深めている。

2 今後の課題

小・中連携を核とする中で、多種多様な健康課題を抱えた子どもたちへの対応について、子どもを取り巻く人的・物的資源や財産、環境をどのようにコーディネートしていけばよいのか、管理職のリーダーシップの下、コーディネーターとしての役割が養護教諭に強く求められている。

(1) コーディネーション力の向上 ～連携・協働に向けて～

健康課題の解決に向けては、地域ぐるみで取り組む必要がある。校種間、行政や医療などの関係機関との連携は不可欠である。小・中の9年間から保・幼・小・中の12年間を見通しての継続的な校種間の協力連携が、重要になってくる。したがって、校内外の職員、児童・生徒、保護者、地域住民との意思疎通を図り、なおかつ、各関係機関や部署のみならず、人と人とを結びつけるための連絡・調整が養護教諭の大きな役割として位置づけられる。的確な判断と柔軟な対応が求められる。

(2) より高い専門性の習得

改善したい生活習慣の一つであるインターネットの過剰使用の問題は、低年齢化しつつある。子どもへの支援や指導はもちろんであるが、保護者の意識改革のための啓発活動が重要になってくる。コミュニケーション力を駆使するとともに、より高い専門性で子どもや保護者に直接働きかけることが必要である。